

あだたら



特集：ふくしまグローバルセミナー2010

「ふくしまグローバルセミナー2010」クロージングセッション (平成22年12月12日)

JICA二本松で世界を学ぼう。 ～ふくしまグローバルセミナー2010～



今年で通算14回目を迎えるこのセミナーは、国際交流・国際協力・多文化共生・国際理解教育・開発教育についての理解を深める参加型セミナーです。今年も、全体講師として中村絵乃さん（NPO法人開発教育協会事務局長）をお迎えし、オープニングとクロージングで参加者全員による学びあいを行いました。また、参加者自身が講師となる自主セッションも楽しく開催しました。そのほか「ふくしまユースグローバルカレッジ（※1）」の受講者が講師となって運営する講座や自主セッションの場を新たに取り入れました。

参加者数は、県内外を含め約120名が集まり、幅広い年齢層による交流ができました。

開催日：平成22年12月11日（土）～12日（日）

主催：福島県国際理解教育ネットワーク

（構成団体：福島県、福島県教育委員会、（財）福島県国際交流協会、JICA二本松）

※1 年間を通じた研修と実践を通じて、国際理解講座の講師としての活動を目指す人のための連続講座です。（（財）福島県国際交流協会の主催事業です）

12月11日（土）

オープニング セッション 12:45～13:30 全体講師：中村 絵乃さん（NPO法人 開発教育協会事務局長）

セッション	講座A	講座B	講座C	講座D	講座E	講座F	
1	世界の今を考える ～私たちにできること～ さいとう ゆうし 齊藤 祐巳 JICA二本松所長 やなぎだ としお 柳田 敏雄 JICA福島専門家 福島県連協会	地球の食卓 ～フードマイレージ編～ なかむら えの 中村 絵乃 NPO法人 開発教育協会	中国と日本、 これからの関係 がくじよ 呂 学如 福島学院大学	「バーナガ」 ～人と人の関わり方～ くさべ 喜美子 日下部 喜美子 グローバル教育研究会 ふくしま H22年度 グローバル カレッジ生	BRICsの経済発展の光と影 ～インドの場合～ サンジェイ・バリーク 日本大学工学部建築学科	カラフルな多民族国家 ～オーストラリア～ オーシン・コリンズ いわき市役所	
2	『クロマグロの悲劇』 ～獲ることと食ること～ さかあき 美奈子 坂中 澄子 郡山市小山田小学校 H22年度 グローバル カレッジ生	運動会から世界が見える ～カイロ日本人学校から～ やました 嘉寿夫 山下 嘉寿夫 福島市立平田小学校 みかみ ひろし 三上 博史 福島県立明世高等学校	ベトナムで 2人3脚の国際協力 ことう 後藤 あや 知識 美奈 福島県立医科大学医学部	となりのモンゴル 平成22年度 JICA教師海外研修 モンゴル派遣参加者	「多文化社会」の やさしいとらえ方 にい まさひろ 新妻 政弘 （財）福島県国際交流協会	ハンガーマップ ～もう一枚の世界地図～ きくち えみこ 菊地 恵美子 みほや たいけい 三保谷 泰輔 国際交流の会からみあ	

参加者による自主セッション 17:15～18:00 セミナー参加申込者の皆さんの中で、国際に関わる自分の活動について発表したいという方のためのセッションです。

全体講師の 中村絵乃さんに聞きました！



Q: 初めての全体講師の感想は？

A: 若い人が多く、積極的な人が多いと感じました。とても楽しかったです。オープニングは緊張していましたが、クロージングは話が止まらないという感じてしたね。

Q: 今後のグロセミにメッセージを。

A: 泊まりだからその良さがあり、続けてほしいですね。ふくしまの地域性などの特色を出すことや、自主セッション企画者からプログラムの講師になる人がもっと増えることを期待します。



クロージングのグループワークの様子



地球の食卓～フードマイレージ編～の講座を実施している様子



オープニングで「自主セッションのアピール」をする参加者



クワマガロの悲劇～獲ることと食べること～の講座で、魚取りゲームをする様子



運動会から世界が見える～カイロ日本人学校から～の講座で、綱引きをする様子

= 参加者の声 =

- ・たくさんの人との出会いがあって楽しかった。
- ・自分の活動を見直すきっかけになった。
- ・初参加のときよりも深く学べたので次回も参加したい。

- ・もっと多くの方に関心をもってもらいたい。
 - ・初めて知る活動が多く、ネットワークが広がった。
 - ・共有がすばらしい。
- アンケートより

12月12日

「貿易ゲーム」 ～経済格差のしくみ～

ふた せつこ
布田 節子
ふくしま青年
海外協力隊の会

メディアを主体的に 利用する方法

あら やすよし わたなべ てるお
荒 康義 渡辺 光男
福島県立 グローバル教育研究会
福島西高等学校 ふくしま

日本語から見た 日本人の言語行動

なかがわ ゆうじ
中川 祐治
福島大学 開発学文化学類

私たちは意識するしないに関わらず、常に世界とつながって生活しています。世界の自由貿易を疑似体験することを通して、世界の経済格差が生まれる仕組みを知り、自分たちの生活を振り返るきっかけにしませんか。

世界の情報を知るための有効な手段としての映像メディア。しかしその裏には発信者の意図が隠されています。映像メディアをより主体的に利用するための視点を、送り手の立場になりながら考えます。

よく言葉は文化を映す鏡とも言われます。例えば、物を贈る際に使う「つまらないものです」という謙遜の日本文化は外国の方にとどう映るでしょうか。日本語に隠された日本人の行動パターン・価値観を探ります。

セッション
3
9:00
～
10:30

青年海外協力隊 シミュレーション

わたり 直樹
割田 直樹
ふくしま青年海外協力隊の会

アフガニスタンの 田舎から

こんの みちひろ
紺野 道寛
ベシヤール会

ふるやま ましひろ
古山 良宏
H21年度国際貢献
リーダー養成講座

ちがいをゆたかに ～Celebrate Diversity!～

マクマイケル・ウィリアム
福島大学 学生課

協力隊って実際どんなことをしているの？ある途上の農村を舞台に協力隊活動を疑似体験するワークショップ「ハナの村」現地適応・課題解決の難しさや国際ボランティアの役割について考えます。

アフガニスタンってどんなイメージですか？危険な・テロ・地雷…と怖いことばかり？4年間の活動を通じて知り合った人間臭いアフガンの農民達。一人の人間としてのアフガンの人々の生活に目を向けます。

外国出身者が増え、人々の多様性が目立つようになってきました。この多様性を「プラス」にとらえるためには？カナダ出身者の視点から、違いを豊かさに変える大切なポイントを、楽しいアクティビティを通して発見します。

クロージング セッション 10:45～12:15 全体講師：中村 絵乃さん (NPO法人 開発教育協会事務局)



トランプゲームを取り入れた講座をすすめる2人



講座開始前に、同じく講師の日下部喜美子さん（左）と最終確認をしています

初めて講師を担当した、 グローバルカレッジ受講生に聞きました！



- Q**: 本番を終えていかがですか？
- A**: 参加者の表情を見て進めることができました。協力してできたと思います（溝井）。むずかしさも感じましたが、このような経験ができてよかったです（板橋）。
- Q**: 講師に挑戦してみたい人へメッセージを
- A**: 知ることと伝えることは全然違う。実践しながら効果的な伝え方を学ぶことができるのでぜひ挑戦してほしいと思います（溝井）。自分にとって初めてのことでした。何でもいいから一歩を踏み出してほしいと思います（板橋）。

◀グローバルカレッジ受講生の溝井彩夏さん（左）と板橋美樹さん（右）担当講座は「バーンガ～人と人との関わり方～」

「ふくしまユースグローバルカレッジ」については、(財) 福島県国際交流協会へお問合せください。Tel 024-524-1315



JICA 国別研修受入れ事業 ガーナ人がふくしま県にやってきた!



猪苗代町出身の野口英世博士は、ガーナで黄熱病研究に力を尽くしました。その縁で、ガーナからの研修員を福島県で受け入れ、研修プログラムを実施することになったのです。すべてのコースにおいて、野口英世博士の生家訪問を組み込んでおり、本県との交流促進が期待されています。

研修内容は、ガーナ政府の希望を踏まえて産業振興支援、道路維持管理、初等教育指導法改善、稲作振興の4つのコースを設けました。平成22年度から平成24年度までの3年間、毎年数十名の研修員が訪れます。

今回は昨年11月に行われた、稲作振興と産業振興支援の研修の様子をご紹介します。



米コーナーで説明を受ける研修員。ガーナでは店に精米機が置いていないため、興味深いと言っていました。

◆ 稲作振興コース

稲作振興コースのメンバーは全員で5人。30歳から50歳までの男女で、ガーナの食料農業省や灌漑開発局に勤める技術者や専門家です。

この日は農産物直売所の視察のためJA新ふくしま直売所「こころ吾妻店」に行きました。担当者の講義のあとに「農薬の検証はどのようにしているのか、手数料は何に使っているのか、農家の識字率はどのくらいか」などのたくさんの質問が出ました。とくに農家の人たちが自分たちで商品の値段をつけることや、携帯やシールを使っての細かな管理方法に驚いていました。また売り場の清潔さ、きれいな並べ方、パッケージの良さにも感心していました。



りんごの試食。とてもおいしいと言ってお土産に買い求める研修員もいました。



野口英世記念館を訪れ、説明を受ける研修員。後ろに見えるのが野口英世博士の生家。

◆ 産業振興支援コース

産業振興支援コースの研修では、テクノアカデミーや会津大学、ハイテクプラザなどで講義を受け、視察では県内企業の製造工程、火力発電所などを訪れました。

野口英世記念館の訪問では、野口英世博士の生涯についての説明を受け

たあと、生家を見学し、資料館で理解を深めました。視察後の研修員からは、大変感銘を受けて、自分も一生懸命がんばっていききたいとの声が聞かれました。



記念館の2階にある野口英世博士そっくりのロボットを前に記念撮影。ここは野口博士の研究室を再現しています。

行動

～地球の仲間のために、私たちができること～

JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2010 受賞者発表

◆ 高校の部

受賞した皆さん、学校の皆さん、おめでとうございます。またご応募いただきました皆さん、本当にどうもありがとうございます。来年度のご応募、お待ちしております。

受賞名	学校名	氏名	作品タイトル
特別学校賞	福島県立あさか開成高等学校		
ふくしま 青年海外 協力隊の 会会長賞	福島県立あさか開成高等学校	片岡智枝里	世界の紛争で思うこと
	福島県立あさか開成高等学校	金田 麻依	「豊かさに囲まれて」
	福島県立白河高等学校	草野友貴奈	「未来」
	福島県立富岡高等学校	早川紗保里	韓国人からもらった優しさ

(氏名 五十音順)